

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

大沼 雅也 (横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 准教授)

2. 課題名

埋め込み型身体機能補完技術をめぐる ELSI/RRI の検討基盤の構築に向けた企画調査

3. 実施期間

2022(令和4)年10月1日 ~ 2023(令和5)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、「埋め込み型身体機能支援・補完・拡張技術」を基に推進される医療イノベーションに着目し、「筋電義手」、「ブレイン・コンピュータ・インタフェース」という二つの技術を対象としつつ、それを体内に埋め込むことによって生じる ELSI について整理すること、技術と社会の調和を図るための方法としてリビングラボの実践手法について知見を深めること、一連の研究を推進するための研究体制を充実させること、これらを通してプロジェクト展開に向けた基盤を構築することを目標として実施されたものである。

また、当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、侵襲性・非侵襲性の包括的検討とエンハンスメントに関する考察、「責任・同意・正義」とした ELSI 論点の検討仮説についての妥当性と論点の再考仮説構築、同一大学・地域に閉じない体制の構築などの点の強化を期待した。

企画調査の結果、各実施項目の検討については一定の成果が見られ、プロジェクト全体としての研究開発構想が具体的になりつつある。

しかしながら、市民対話の促進方法については、対話手法の検討、市民対話、同意形成などの基礎論点の考察に限られており、論点の展開に関しては、技術の実情を踏まえた具体的な問題との距離が感じられる。また、同意取得に関する問題の解決や「責任」概念にかかわる法的な検討について不十分であり、ELSI 論点の仮説構築にも課題が残る。強化を期待していた『侵襲性・非侵襲性の包括的検討とエンハンスメント』に関してはさらなる考察が必要であり、『学外に広げたチーム体制の構築』については、充実したプロジェクト提案につなげるためにも、学内での連携強化や外部との体制構築が必要だと考える。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループチームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職は2023年5月末時点)